

集客へ秋商生がアイデア

11月 バスケ・アランマーレ試合で実施



企画を発表する生徒

秋田市の秋田商業高校（瀧澤徳彦校長）の3年生が、バスケットボール女子Wリーグのアランマーレ秋田の試合に訪れる人を増やそうと、会場で行う企画を考案した。最優秀賞に選ばれたアイデアなどを基に、11月に秋田市のCNAアリーナで行われるホームゲーム会場で集客企画が実施される予定だ。

企画の考案は、3年生の必修科目「総合実践」の一環。チームを運営するアレステージ・インターナショナル社員らの指導の下、6月から3年生233人がグループごとに議論を重ね、試合会場への集客やチームの知名度向上を目標し企画を練り上げた。

13、14日にはアランマーレの選手らに向けて企画を発表。それぞれ審査を行い、両日の最優秀賞を選んだ。このうち14日はアランマーレの佐藤ひかる選手、高野柚希選手、高橋悠佳選手が見守る中、12グループが発表した。スタンプラリーやフリース

プレゼン、選手ら審査

スタンプラリー、フリースロー、料理提供…



生徒に向け審査の感想を語る佐藤選手

ローを楽しむ企画や、選手の出身地の名産品を使った料理の提供などの多様な企画を、予算案や来場者数の目標などとともにプレゼンテーションした。

14日の最優秀賞には「秋田の美味しい食で健康に」をコンセプトに、県産の材料を使ったきりたんぽや稲庭うどんを提供する企画が選ばれた。アレステージ社員や教員によ

って行われた審査で、地域貢献を目指すチームコンセプトとの親和性などが評価されたという。

グループのリーダーを務めた大越楓田さんは「企画を発表するためのポスターのデザインを工夫した。秋田の活性化のため、また企画を考えたい」と話した。

ゲスト審査員として審査に参加した佐藤選手は「良い企画ばかりで審査は難しかった。企画を考え発表した経験をも後に生かしてほしい」と語った。（日比野桃子）